

まちづくり交付金 事後評価シート とおかまち地区

平成21年12月

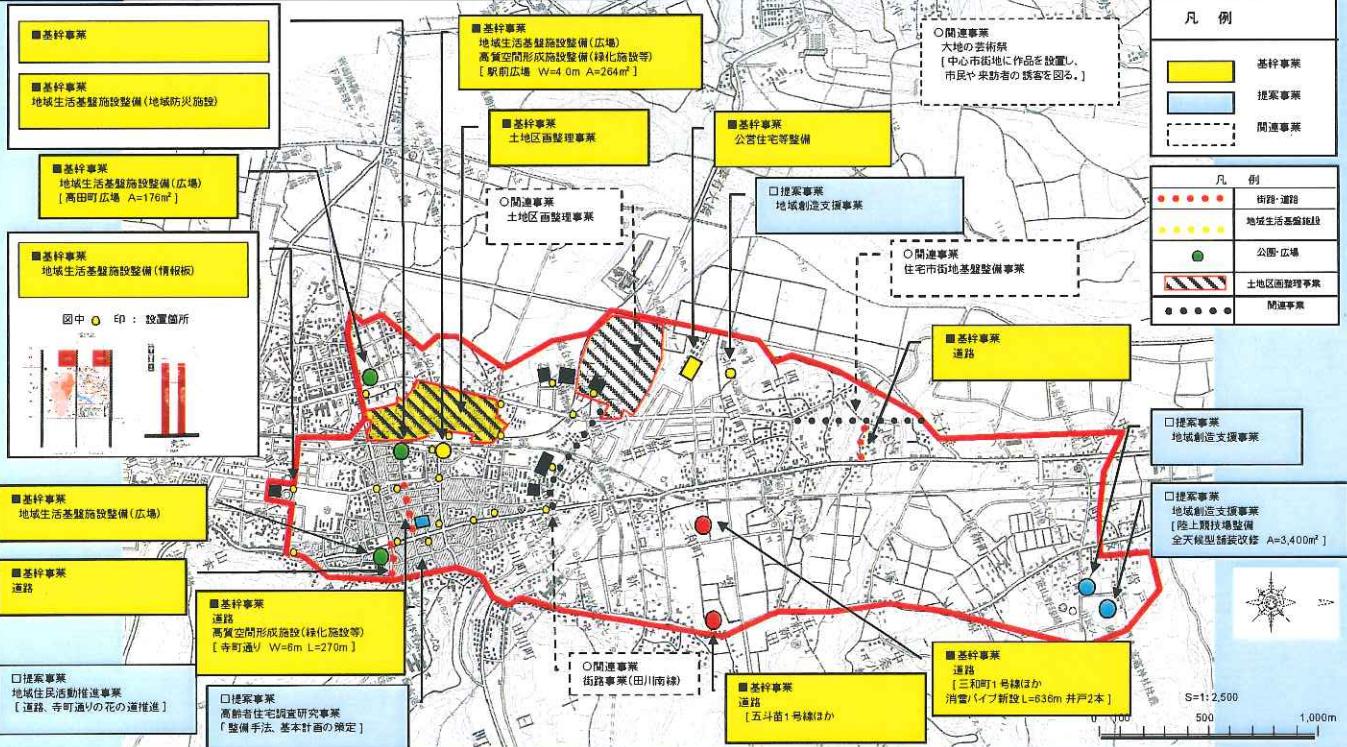
新潟県十日町市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	十日町市	地区名	とおかまち地区			面積	493ha				
交付期間	平成17年度～21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	2,292百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業 基幹事業 提案事業	事業名 市道改良事業(1路線)、公園(1箇所)、地域生活基盤施設(歩行者用市街地案内板、広場整備)、高質空間形成施設(石畳舗装、照明施設、ロードヒーティング、障がい者誘導施設)、土地区画整理事業(十日町駅西地区)、公営住宅等整備(新築1棟)											
		事業活用調査(高齢者集合住宅調査研究)、まちづくり活動推進事業(市民ワークショップ)											
	当初計画から削除した事業 基幹事業 提案事業	事業名 市道改良事業(2路線)			削除/追加の理由 沿線住民の住民合意形成が成されず事業中止。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 指標4:「歩行者数」の数値目標を下方修正					
		事業活用調査(コミュニティバス運転試行事業)			市町村合併により計画エリアの見直しが必要となったため事業中止。			影響は軽微					
		新たに追加した事業 基幹事業 提案事業	事業名 市道改良事業(1路線)、市道消雪パイプ新設事業(2路線) 地域生活基盤施設(広場2箇所、地域災倉庫1棟)			スポーツ・文化地区へのアクセス道路整備。 中心市街地におけるイベントスペースの確保。			影響は軽微				
			地域創造支援事業(陸上競技場整備事業、「火焰の都構想」運営支援・大井田の郷公園トイレ新築)			交流人口の増加および人材育成のためスポーツ・文化地区の施設整備、文化事業の充実。			目標:スポーツ・文化活動の充実を目標に追加。 指標5:「陸上競技場利用者数」を追加。				
	交付期間の変更 当初 変更	平成17年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標 単位	従前値		目標値		数値 モニタリング 評価値	目標達成度 △	1年以内の達成見込み あり なし	効果発現要因 (総合所見) 中越地震の影響等による急激な人口減少の中、区画整理事業等が中心市街地における人口減少率の抑制に寄与した。	フォローアップ予定期 H22年4月頃			
		基準年度 H15	目標年度 H21	-1.13	-0.87								
	指標2 お祭りの入り込み客数 人	188,000	H15	200,000	H21	268,400	276,000	○	あり なし	来訪者の快適性・利便性を高めたことやPR活動の促進等がお祭りの入り込み客数増につながった。	H22年4月頃		
		-3.09	H13	-1.50	H21	-0.73		○	あり なし	歩行者空間が整備され中心市街地に回遊性を持たせることができた。			
	指標4 歩行者数 人	634	H16	680	H21	865		○	あり なし	メインとなる2路線の街路事業が中止となつたものの駅周辺整備により大幅な歩行者の増加が確認された。			
		27,861	H15	30,000	H21	31,382	30,525	○	あり なし	公認競技場となったことで大規模な競技会の開催が行われ施設利用者数が増加した。	H22年4月頃		
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標 単位	従前値		目標値		数値 モニタリング 評価値	目標達成度 △	1年以内の達成見込み あり なし	効果発現要因 (総合所見) 人口の減少化が進む中、土地区画整理事業を実施している十日町駅西地区においては事業効果による人口増加が確認された。	フォローアップ予定期 -			
		基準年度 H16	目標年度 H21	753	764								
	その他の数値指標2 -	-	-	-	-	-		-					
		-	-	-	-	-		-					
4)定性的な効果発現状況	・陸上競技場で開催された「北陸実業団陸上競技選手権大会」では、参加選手団が中心市街地の商店街を利用する姿が見られた。中心市街地からは離れている「スポーツ・文化地区」の整備が中心市街地の賑わい再生に寄与し、中心市街地の活性化にもつながった。 ・中心市街地に点在する「雪まつり」の雪像や「大地の芸術祭」参加作品を巡る来訪者が、街の角々に設置した歩行者誘導案内看板を見知らぬ土地での「道しるべ」として活用されていた。 ・中心市街地に整備された泉町公園では、人々が集まる和やか空間が整備されたと共に、災害時の防災体制として新たに町内主体による自主防災会が組織され、公園が地元町内の1次集合場所として活用されることになった。 ・昨年、合併後初めて全市民を対象にした市民大運動会が、本事業で整備された陸上競技場において開催された。これを期に、同陸上競技場において4年に1回の継続開催が決定された。												
	実施内容												
5)実施過程の評価	モニタリング	・本市統計書等によるモニタリング			実施内容 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		実施状況 ● ●	今後の対応方針等 ・交付期間中に供用した事業の効果を確認することができた。 ・モニタリング同様に毎年度の本市統計書により確認する。					
	住民参加プロセス	・「十日町TMO(タウンマネジメント機関)」との活動連携 ・中心市街地の公園、道路に関する市民ワークショップの開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			・中心市街地活性化を計画的に進める上で、今後も活動の連携を図る。 ・事業化できなかった道路事業について継続し沿線住民との合意形成を図る。					
	持続的なまちづくり体制の構築	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			-					

様式2-2 地区の概要

とおかまち地区(新潟十日町市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
テーマ:だれもが安心して活動できるにぎわいあふれる都市ゾーン	中心市街地区域内人口減少率の抑制 単位: % お祭りの入り込み客数 単位: 人 中心市街地買物利用割合 単位: % 歩行者数 単位: 人 陸上競技場利用者数 単位: 人	-1.23 H15 188,000 H15 -3.09 H13 634 H16 27,861 H15	-0.80 H21 200,000 H21 -1.50 H21 680 H21 30,000 H21	-0.87 H21 276,000 H21 -0.73 H21 865 H21 30,525 H21
① 安心・快適・暮らし続けたいまちづくり～安心して暮らせる住環境整備～市民と一緒に快適な生活空間の創出～ ② 人を惹きつけ活気にあふれるまちづくり～市民生活の中心としての活気づくり～地域の経済循環の拡大～ ③ 世代間・地域間の交流によるふれあい満ちたまちづくり～地域社会の活性化～ ④ 地域に誇りと愛着をもつ創造性豊かな人づくり～スポーツ・文化活動の充実～				
  		  	<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 基幹事業 ■ 基幹事業 地域生活基盤施設整備(地域防災施設) ■ 基幹事業 地域生活基盤施設整備(情報板) ■ 基幹事業 地域生活基盤施設整備(広場) [高田町広場 A=176m²] ■ 基幹事業 地域生活基盤施設整備(道路) [寺町通り W=6m L=270m] □ 提案事業 地域住民活動推進事業 [道路、寺町通りの花の道推進] ■ 基幹事業 道路 高架空間形成施設(緑化施設等) [寺町通り W=4 m A=264m²] ■ 基幹事業 土地区画整理事業 [駅前広場 W=4 m A=264m²] ○ 関連事業 大地の芸術祭 [中心市街地に作品を設置し、市民や来訪者の憩を図る。] ○ 関連事業 土地区画整理事業 □ 提案事業 地域創造支援事業 ○ 関連事業 住宅市街地基盤整備事業 ■ 基幹事業 通路 [三和町1号様ほか 消音パイプ新設 L=636m 井戸2本] ■ 基幹事業 通路 [五斗町1号様ほか] □ 提案事業 地域創造支援事業 [陸上競技場整備 全天候型舗装改修 A=3,400m²] 	<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 街路・道路 ◆ ◆ ◆ 地域生産基盤施設 ● ● ● 公園・広場 ■ ■ ■ 土地区画整理事業 ● ● ● 関連事業
まちの課題の変化	<p>・中心市街地における人口減少率の抑制は目標値を上回ることは出来なかったが中心市街地の人口減少率、買物利用割合とも抑制傾向を示すに至った。また、年々、お祭り入り込み客数も増加している。</p> <p>・中心市街地では、道路との連続性を持たせた公園整備や冬期間も快適な歩行者空間となった駅前広場整備等により、歩行者の回遊性を向上することが出来た。さらに、歩行者誘導案内看板により、まちに不案内な来訪者でも「まち歩き」が出来る市街地の形成に貢献した。</p> <p>・中条地区では、陸上競技場が公認競技場となり各種大会が開催されるとともに、隣接する文化財(篠山遺跡)を活用した"じょうもん市"も年々大規模になってきており、これらのスポーツ・文化関係来訪者が増加している。</p> <p>・事業を進める中で、中心市街地の2路線(川治昭和町線、稻荷町線)の街路整備の必要性と、新たな住民ニーズ(駐車場確保、放置空き店舗に係るアスベスト飛散や倒壊防止の問題、公園整備)が浮かび上がってきた。</p>			
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>・中心市街地における交通のネックとなっている2路線の街路整備に向け、沿線住民の合意形成を図る取り組みと局部的な踏切改良の実施が急務となっている。</p> <p>・中心市街地において空き店舗や空き地の広がりが目立つ中、地元住民からは「駐車場の確保」、「放置空き店舗問題(アスベストの飛散や建物倒壊)の解決」、「中心部における公園整備」といった要望が高まっており、これらのニーズに具体的にどう取り組み、どう事業化するかの検討が必要である。</p> <p>・「スポーツ・文化地区」の整備に伴い、これらの施設、文化財を活用した来訪者の増加に向けたPR活動等の促進を図り、増加した交流人口をどうやって中心市街地の活性化に結びつけるかの検討を図る必要がある。</p> <p>・街なか居住を高めるため、中心市街地に点在する空き店舗等を利用した低層公営住宅や集合住宅の建築といった具体的な施設の検討を図る必要がある。</p>			